

1 学校教育目標 「元氣いっぱい しっかり勉強 みんな仲良し」 いっしょけんめい勉強にはげみ、人とのかわりを大切に、未来をたくましく生きる若基の子どもを育てる。	
2 学校経営ビジョン めざす学校 【明るく元気で、お互いのコミュニケーションを大切にできる学校】 ○明るく元気で、思いやりと感謝の心を持った子どもたち ○指導力向上に努め、子どもに積極的に関わる教師集団 ○家庭や地域とのつながりを大切にできる学校 めざす子ども像 【元気で、かしく、まわりの人とのかわりを大切にできる子ども】 ○大きな声で「おはようございます」や「ありがとう」が言える子 ○意欲をもって勉強にはげむ子 ○人の思いも理解し、自分の思いを積極的に伝えられる子	
3 本年度の重点目標 ○自分の思いを積極的に伝え、なおかつ相手の思いも理解できる子になるよう、確かな学力とコミュニケーションの力を身につけさせる。 ・校内研究(外国語活動)の推進 ・教科等や日常生活におけるコミュニケーション能力の向上 ・家庭や地域との連携	4 前年度の成果と課題 ・生徒指導面では、実態把握に努め、素早い対応、問題解決の体制をとることができた。 ・担任、級外も授業研修を行い、外国語活動の力量の向上と技の共有化を図る気運が高まった。 ・加害予告の危機対応で、地域や家庭との連携が深まり、見守り当番ができた。 ・昨年度の佐賀県学習状況調査では全教科とも県平均を下回った。

5 総括表					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	
学校運営	学校経営方針	・本年度の学校目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知する。周知度を85%以上にする。	B ・新しい目標に変わったため、保護者の周知度は71%となった。職員の周知度は100%であった。	
	開かれた学校づくり	・保護者への情報発信	・学校たよりを月2回発行しその都度HPへもアップする。 ・行事の広報を行う。	A ・学校便りは週1回のペースで発行し、HPへの掲載も確実にできた。 ・行事についてもプリントのみならず、学校情報メール等で広報できた。	
	教職員の資質向上	・児童理解の力量向上 ・教育センター講座受講による研修の推進 ・授業研究を充実し力量を高める。	・児童理解のための学級活動を実施する。	B ・学活の時間は継続して実施したが、エンカウンター等の研修ができなかった。	
			・年間一人あたり1回の受講。	A ・全員が研修を受講した。	
			・研究部会毎に4回(2部会で計8回)の研究授業を行い、研究会をもつ。	A ・外国語活動の研究発表会を実施する中で、目標を達成することができた。	
	○危機管理体制の整備	・児童の安全、安心の確保 ・通学路の確認と安全確保	・飲酒運転及び交通三害の防止 ・体罰・セクシャルハラスメントの防止 ・個人情報管理	C ・具体的目標については、具体的方策をもとに実施できたが、職場外において職員の不祥事が発生した。	
・全職員で安全指導計画に沿った各種訓練を実施する。			A ・予定していた訓練を計画的に実施できた。		
教育活動	●学力向上	校内研究(外国語活動)の推進	・外国語活動に係る研究発表会を実施する。 ・教師の授業技術の向上。	A ・11月25日に研究発表会には100名を超える参加者があり盛会のうちに終了した。職員の指導技術も確実に向上している。	
		少人数やT・T指導による学力向上	・業者テスト(算数)の全国平均を上回る。 ・学期末計算テストを3回実施する。	B ・学期末計算テストは実施できた。 ・Tや少人数授業を計画的に実施した。 ・県学習状況調査や全国学力・学習状況調査が平均値より下であった。	
		読書指導の充実	・1人年間70冊を目標に読書を行う。 ・「読んでおきたい30選」の読破	C ・「読んでおきたい30選」は約50%の達成率だったが、「1人年間70冊」については16%であった。	
		学習習慣の確立	・各学年の学習習慣の策定。 ・家庭学習の習慣化	B ・「話し方・聞き方」の掲示、「家庭学習の仕方」の配布等を行い学習習慣の定着を目指した。 ・話し方・聞き方の定着は8割程度だった。	
		●心の教育	道徳の時間の充実	・年間35時間(1年生は34回)の道徳の授業確保 ・ふれあい道徳で学級担任全員が年1回以上の公開授業を行う。	A ・予定通り授業実施できた。また、参観日に全クラスで授業を公開した。
	●健康・体づくり	運動習慣の改善や定着化	・なわとび運動の奨励 ・「早寝、早起き、朝ごはん」の実施率を85%以上にする。	A ・なわとび指導は全クラスで積極的に行った。 ・毎朝確実に朝食を摂る児童は94%であり、目標を大きく上回った。	
			○生活指導	あいさつの徹底	・「大きな声で進んであいさつ」の奨励(朝の挨拶を10回以上しよう！)
	特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	低学年の基本的な学習・生活習慣の育成	「小学校低学年の指導に関する計画書」の結果が「評価数値4または3」をめざす。	A ・ほとんどの項目で4または3の評価数値であり達成できた。
			○特別支援教育	特別支援教育体制の確立	校内委員会を設置し、支援を要する児童について個別の指導計画、個別の支援計画を作成する。

6 総合評価 ・学校教育目標が新しくなったことで、前年度までに比べて保護者への周知率が下がっている。今後は、さらに周知の機会を増やして、保護者の理解と協力を得る努力を行って行きたい。通学路の確認や、児童の安全面への取り組みについては、保護者や地域の協力もあり効果が上がっている。学力向上にも関わって「読書指導の充実」については、きわめて達成率が低かった。読書指導についての職員の共通理解や、具体的な取り組みが不足していた。また、「あいさつの徹底」も具体的な取り組みが十分でなかった。

7 来年度の改善策 ・A評価の部分については、取り組みを継続して次年度にいかしていく。 ・「読書指導の充実」は、新指導要領の柱「言語活動の充実」の基盤をなすものであるという意識で全職員で取り組みを強化する。具体的には、各種取組について、具体的な数値目標を設定して、定期的なサイクルで検証を行いながら、その都度、よりよい改善策を立てて効果をあげていく。 ・B評価であった「学力向上」の伸長にむけて、「朝の時間」「授業中」「家庭学習(家庭との連携)」の3本柱を設定して、各項目について職員の共通理解を深めながら学校全体として重点課題として取り組んでいきたい。
